

アミーゴ通信

2015年12月 南瓜号

《特集》

アミーゴ 子ども支え合い事業

- ・ 自然塾
- ・ だがしや楽校
- ・ いわきプロジェクト

アミーゴ 10周年記念事業

追悼：菊池宇光さん

2015年12月
南瓜号

発行日：2015年12月●日

発行者：永井昌史

住 所：西東京市西原町1-5-13

電 話：042-478-0056

e-mail：info@kodomoamigo.org



アミーゴ子ども支え合い事業報告① 「山で遊ぼう！ 自然塾」



アミーゴが事業のひとつとして行っている「自然塾」は、学童クラブの卒所児童を対象とした野外キャンプのイベントです。今年は8月7日（金）から9日（日）までの2泊3日の行程で実施しました。今回、子どもの参加者は小学5年生から中学3年までの24名、そして、これまで自然塾に参加してきた高校生4名がスタッフの一員として子どもたちを引っ張っていきました。

宿泊地は、日の出町のNPO花咲き村が運営している「古民家滝本」というところで、建物がありますが、基本的に三日間通してその敷地にテントを設営し生活します。

自然塾の目的のひとつは、普段と違う自然のなかでの集団生活を通して、子どもの自主性・創造性を育むこと。もうひとつの目的は、学童クラブを卒所した後における「つながりあう機会」のひとつとして、これをきっかけに地域のなかでの絆をつくる、といったことにあります。今年で6回目の実施となりましたが、毎年必ず参加してくれる子どもたちも増えて、彼らの成長を見守るとともに、地域での学童クラブを軸とした「つながり」を確かめる絶好の機会となってきました。

* * *

【準備段階：子ども会議】

当日を迎えるまでのあいだ、高校生スタッフをリーダーとして何回も「子ども会議」を開きました。今回の自然塾で何をやるか、食事はどうするか、どのように行動するかなどを、子どもたち自身で話し合い決めていく会議です。

お互い異なる学童クラブの出身のため初めて顔を合わせるといふケースが多く、はじめはぎこちない雰囲気での「子ども会議」でしたが、現役の学童クラブ職員による細やかな段取りのもと、回を重ねるごとに関係がなじんでいき、目に見えて活発に意見を言いあえるようになっていきました。

【1日目】

当日、朝の8時に田無駅に集合し、それぞれの家族や学童クラブの職員など多くの人に見送られながら出発、参加予定の子どもたち全員がひとりも欠けることなく、電車に乗り込みました。目的地の最寄駅である武蔵五日市駅で電車をおりて、まずは近くのスーパーで三日間の食材を買います。食事には何を作り、そのためには何が必要か、「子ども会議」で話しあって作ったリストがあります。それを見ながら、「あれがいいよ、こっちが安いよ」と相談しながら食材を選んでいきました。



火おこしから始まるキャンプ生活

買い物が終わったら、「つるつる温泉」行きのバスに乗って日の出山登山口まで行きます。バス停で降りて30分ほどなだらかな山道を

登っていき、午前11時「滝本」に到着しました。開村式のあと、さっそく宿泊地周辺を全員で見回り、危険なところがないか確認していきます。平地でもかなりの草が生い茂り足元の危ないところもあるため、まずは草刈り、それから必要な道具・備品などの配置、テント設営と、生活の場所づくりを進めていきました。

この日のプログラムは一日目ながらとても盛りだくさん。お風呂や食事づくりのための火おこしから始まり、すぐ近くを流れる川での沢遊び、魚つりのための竹ざおづくり、そして川べりでのドラム缶風呂。夕方からの食事づくりは、前もって決めていた分担にしたがって、担当の班を中心に進めていきます。この日のメニューはカレーとビーフシチュー、薪を燃やしたかまどに大なべをかけてしっかり煮込み屋外で食べました。

真っ暗になった夜の山での花火と肝だめしで、子どもたちはそこでしか味わえない特別な時間を満喫しました。

【2日目】

早朝5時、男子を中心にさっそく魚つりにでかけました。このあたりの川には、ヤマメ、ハヤ、イワナ、ニジマスなどが生息していますが、手づくりの竿で2日間にわたって何度も挑戦し、しっかり獲物を釣り上げること

ができました。

朝食後しばらくゆっくり過ごして、自然塾では『冒険広場』と呼んでいる、山の傾斜地の合間にある川浴いのスポットにみんなで向かいました。滝つぼで滝にうたれ、川遊びをしながら沢がにを探してみたり、岩場を登ってちょっとした冒険を試してみたり、思い思いに楽しめます。お昼はそこでお湯を沸かし、カップラーメンなどを食べて冷えた体をあたためました。

そこから歩いて「つるつる温泉」に行きホッと一息をついたところで、また夕食づくりに取りかかります。この日のメニューはチャーハン、豚汁にバーベキュー。何度も自然塾を経験しているメンバーなどは包丁さばきなどの手つきもよく、段取りもスムーズに調理を進めていきます。

夜のプログラムは、キャンプファイヤー。今回のキャンプファイヤーは、北原学童のシンボルとも呼ばれ親しまれてきた「やぐら」のひとつを解体した木材を使って組まれました。音楽に合わせて踊ったり、自然塾に来て感じる各々の思いをのべあいました。火を落としたあと、北原学童を卒所した子どもの一人が、真っ黒の炭になった「やぐら」のかけらを、学童の後輩たちに渡すんだと言って、そっと持ち帰りました。



全員で協力しあって食事づくり

【3日目】

最終日は、締めくくりに向かってテントの片づけや使用した資材などの整理に追われます。そのあと、今回の自然塾に参加した感想を文章にしたため、竹の板にひとこと寄せがきを書いて自然塾の旗に飾りつけました。(このときに書いた感想文は、後日、ひとつの冊子にまとめて参加者に配られました)

昼食のおにぎりを食べたら、全員で滝本の母屋の前に集まり「閉村式」です。閉村式では、職員スタッフが一人ひとりの子どもを思っ書上げた修了証を、参加した子どもたち全員に手渡しして行きました。

最後の最後まで子どもたちは、自然塾での特別な空気、感激や驚きを味わいつくし名残を惜しむように、山を下りました。

* * *

川の水の冷たさやかまどの炎、メンバーの話し声、暗闇にひそむもの、魚や虫、草や土の感触など、本当に子どもたちはそこにあるすべてのものを全身で楽しんでいました。普段学童クラブで働いている職員、それに高校生スタッフも含めた、信頼できる大人と一緒に行動することの安心感と喜びが、自然塾の場所にはあふれています。

今回も、ご家族の方や多くの職員スタッフ、協力・応援をいただいた方々のおかげで、無事自然塾をおこなうことができました。地域のつながりを確かなものとするには、まだささやかな活動かもしれませんが、この自然塾に愛着を持ち続けながら成長してきている子どもたちがいることは、私たちに誇りと自信を与えてくれます。少しずつ形を変えることはあっても、ひとつひとつ積み重ねるようにして、続けていくことができればと思っています。
(理事：加藤泰)



アミーゴ子ども支え合い事業報告②

だがしや楽校 報告



「みんなで作る夢とぼうけんの物語」

9月13日(日)、向台公園(西東京市)において、今回で8回目となる『だがしや楽校』を開催しました。実行委員会で決まった今回のテーマは、「みんなで作る夢とぼうけんの物語」。私たちの新たな挑戦や希望を地域に根付かせたいという思いが込められています。

もとはといえば「だがしや楽校」は山形県のNPOがはじめたイベントで、お祭りの屋台形式の「自分たちの得意な技や出し物を見せる自分見せ(店)」によって、来てくれた人を楽しんでもらおうというものです。アミーゴとしては、学童クラブや児童センターで普段から子どもたちが楽しんでいる遊びや活動を知っていただく機会として開催してきています。そこで、ただ見て知ってもらうだけでなく、おいしい食べ物を味わいながら一緒に体験し楽しむことによって、地域でのつながりのひとつとする試みでもあるわけです。

来場者は、これまでの中でもっとも多いかもしれないというくらいたくさんの方に来ていただきました。外部団体での出店は、あそぼうパンや人間ガチャガチャ(巨大なガチャガチャの中に人が入っていて景品を出す)の『くるみえ』さん、それに手づくりのクッキーやパンの販売をする『NPOハンディキャップ ウーノの会』さんでした。一見すると文化祭やお祭りの屋台のようですが、一風変わった匂いや雰囲気を感じ出しているところが、アミーゴのだがしや楽校の特長です。

アミーゴが出店したのは、今や定番となったアミーゴ焼きと玉こんにゃく。どこか懐かしいながらも新鮮な味と匂いがここにもあります。駄菓子のお店では、くじ付きのお菓子が子どもたちに好評で、今回は学童クラブを卒所した子どもたちが売り子に入ってくれたおかげで、大量にあった駄菓子が完売しました。アミーゴの運営している学童クラブと児童センターもそれぞれ工夫を凝らした遊びのブースを構え、来てくれた人たちに様々な遊びを体験していただきました。

今回のハイライトといえるのは何といても、当日参加を募って開催した『ベーゴマ大会』でした。現役の学童クラブ職員による実況中継と相ま



展示パネルを作って、アミーゴの活動や学童クラブなどの紹介をしました。



大盛り上がりだったベーゴマ大会

によって支えられています。そのような人たちとアミーゴの職員、それに子どもたちが協力しあって作りあげていくという経験そのものが、団体にとっての貴重なステップとなります。ここで得られたつながりや応援を糧にして、これからのアミーゴの活動に活かしていければ、と考えています。

協力してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

(理事: 加藤泰)

って、トーナメント戦は大変な盛り上がりでした。「遊び」とはいえ勝負に敗れたときの子どもの涙ぐむ姿は、その本気ぶりを伝えてくれました。

また、今回も4年前に震災の被害を受けた福島県からいわき市四倉児童クラブの皆さんに参加・出店していただき、互いに楽しみながら交流を深めることができました。四倉の手づくりのジャムやジュースはとてもおいしく、毎年評判になっています。

世代を超えて楽しいひと時を味わえるだがしや楽校ですが、たくさんの方々のボランティア



フィナーレは「勇気100%」

アミーゴ子ども支え合い事業報告③

いわきプロジェクト

今年も福島の子ども達がやってきました！

2011年より行なっている、福島県いわき市の四倉児童クラブとの被災地交流・支援事業を今年も行いました。今年は52名の児童を西東京に招待し、アミーゴの子ども達と一緒に楽しい時間を過ごしました。

8月21日の午前中に、四倉からのバスが西東京に到着しました。向台、向台第2学童クラブの施設を会場に、アミーゴでは「アミーゴデイ」、四倉では「ハッピーデイ」として行われている、遊びの行事を共に体験しました。手作りウォーターライダー、アミーゴ定番のエスケンや、四倉児童クラブで流行っているチェコの遊びなど、それぞれが好きな遊びを、双方の地域の子ども達が混ざり合いながら存分に味わいました。子ども達の心に、様々な形での震災による影響が見られる中、互いの保育を共有し、少しでも今後の学童保育に活かしたいとの思いもあっての施設体験となりました。



向台・向台第二学童の猫スライダで遊ぶ子どもたち

（理事：佐藤文俊）

子どもアミーゴ西東京創立 10 周年記念事業

アミーゴは2006年1月に設立し、同6月にNPO法人格を取得しました。2016年1月には創立10周年を迎えます。理事と評議員の有志で実行委員会を作り、10月18日に第1回実行委員会を開催しました。現在、下記の周年行事に向けて準備を進めています。

周年行事では、今後の活動に向け、これまでアミーゴとの接点がなかった方々にも足を運んでいただけるよう、今話題の映画「みんなの学校」に登場する大空小学校の木村元校長をお招きして講演会を開催します。映画は、不登校も特別支援学級もなく、みんなが同じ教室で一緒に学ぶ、いわゆるインクルーシブ教育の実践例として注目されていますが、木村氏は著書の中で、地域社会を挙げて子どもたちを見守る取り組みが不可欠であると強調されています。これはアミーゴの理念と共通するもので、今回の講演会を通じて、こうした考え方が少しでも広がればと考えています。

（理事：田中誠）

10周年記念行事【予定】

■ 記念講演会

日時：2016年2月28日(日) 14:00～16:00

会場：西東京市民会館公会堂

講演者：木村泰子氏（元大阪市立大空小学校校長）

参加費：500円

■ 講演会の後、市民会館内にて、これまでのアミーゴの活動を振り返る懇親会を予定しています。

◆ 詳細決定しましたら、追ってご案内いたします。

※講演会に先立ち、西東京市内で映画「みんなの学校」自主上映会が開催されます。ご都合がつく方は、ぜひこちらもご参加ください。（アミーゴも実行委員会に協力しています。）

日時：2016年2月11日(木・祝)

①10:00～ ②13:30～ ③18:30～

会場：コール田無（西東京市）多目的ホール

料金：前売1000円（当日1200円）、小中学生500円

主催：みんなの学校西東京上映実行委員会

追悼：菊池宇光さん（NPO 法人子どもアミーゴ西東京・前代表理事）

前代表理事の菊池宇光さんが 11 月 19 日にご逝去されました。本団体一同を代表し、ここに謹んで哀悼の意を表します。

菊池宇光さんは、合併前の保谷市学童保員連絡協議会から学童保育に携われ、合併後の西東京市学童保育連絡協議会においては 2003 年度会長、及び事務局局長を 3 期歴任され、また三多摩学童クラブ連絡協議会においても事務局次長として地域の学童保育のために積極的に活動されました。そして、市内の学童クラブが民間に業務委託される際に、その受け皿になるべく NPO 法人の立ち上げに尽力されました。その結果、2006 年 1 月に本団体を立ち上げ、同 6 月に NPO 法人格を取得し、翌年 4 月から北原学童クラブの受託業務を開始することができました。すべてが手探りの状態から始まりましたが、強い情熱とリーダーシップでアミーゴの運営をリードしてくださいました。その想いが現在の業容に発展していったことは、皆さまもご存じのことと思います。

菊池宇光さんはいつも子どもたちのことを考え、触れ合いを楽しみにしていました。また、ご逝去の 5 日前にお会いした際には、いつもの笑顔でアミーゴの業務と将来についていろいろご指導いただいたばかりでした。アミーゴの設立と発展に尽くされた菊池宇光さんには、敬意と感謝の念を言い尽くすことができません。心からご冥福をお祈り申し上げます。（代表理事：永井昌史）

アミーゴの活動を支えてください

子どもアミーゴ西東京は、今年で設立から 9 年目を迎えています。活動や事業の土台となる財政基盤の確保のため日夜努力をしていますが、その収入のほとんどを市からの委託金で賄っているのも現状です。地域のすべての子どもたちのために、という大きな目標に向かい活動を継続していくには、皆さんからのご支援がこれからも欠かせません。

どうか、今後ともご支援いただきますよう、お願いいたします。

【支援方法】

1) ボランティアとして活動に関わる

私たちがおこなうイベントや活動に、ボランティアとして関わってください。

2) 会員になる

私たちの活動や考えに賛同いただけたら、会員になってください。会費は年 3000 円です。イベントのお知らせや「アミーゴ通信」などをお送りいたします。

3) 寄付をする

直接的な活動への関わりはできなくても、共感や応援の気持ちを「寄付」という形で表していただけるだけでも、私たちには大きな力となります。

振込先：郵便振替：記号番号 00130-0-55814

三菱東京 UFJ 銀行 東松原特別出張所（319）口座番号：3743180

口座名義：特定非営利活動法人 子どもアミーゴ西東京

☆詳しくは、事務局までお問い合わせください。→TEL 042-478-0056 メール info@kodomoamigo.org